

## 神奈川県立保土ヶ谷養護学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	令和元年度 神奈川県立保土ヶ谷養護学校 第3回 ほどう協議会		
開催日時	令和元年12月12日(木) 午前9時30分～11時30分		
開催場所	保土ヶ谷養護学校 横浜平沼分教室		
(役職名) 出席者	会長：渡部 匡隆、副会長：浅野 和則 委員：栗原 敏郎、大上 和成、小島 淳子、田中 久、岩井 敦子 片岡 充彦 事務局：向井 博幸、井上 浩子、岩瀬 博文、柏原 旭、平澤 東子		
次回開催予定日	令和2年2月25日(火) 午前9時30分～11時30分 於：保土ヶ谷養護学校		
問い合わせ先	神奈川県立保土ヶ谷養護学校 副校長 向井 博幸 TEL 045-714-0581 FAX 045-742-9716		
下欄に掲載するもの	・ 議事録	議事概要とした理由	/
審議(会議)経過	<p>○開会</p> <p>1 会長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開会を宣言。</li> <li>・ 本会は公開しており、開催についてホームページで案内している。</li> </ul> <p>2 保土ヶ谷養護学校校長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参会に感謝。横浜平沼分教室で初めて開催する。生徒の様子もご覧いただき、分教室の活動を理解していただけるとよい。</li> </ul> <p>3 横浜平沼高等学校校長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分教室生徒は、よく挨拶してくれる、気持ちの良い生徒たちである。本校の生徒と分教室の生徒の間ではトラブルは一切なく良好な関係である。相互理解がキーワードになっていると思う。体育祭・文化祭等の行事、部活動への参加で生徒同士の相互理解を進めている。また、1年生の人権教育講座で保土ヶ谷養護学校の連携支援グループリーダーが講師として授業を行っている。教員同士では、初任者研修の一環で分教室の授業見学、保土ヶ谷養護学校の「切れ目ない支援部会」に本校教員が参加している。生徒と教員の交流という点では、BUN カフェに職員が毎回 50 人ほど買いに行き、私も楽しみにしている。本校の生徒の中には将来特別支援教育に携わりたいという生徒もおり、BUN カフェを手伝いたいと申し出て一緒にやっている。そういった意味でも、できる限り本校を有効に使って充実した教育活動を行っていただければと思っている。</li> </ul> <p>(横浜平沼高校 校長退席)</p>		

#### 4 出席者及び会成立の確認

- ・委員 8 名全員の出席により、成立。

#### 5 資料確認、流れ説明

#### 6 横浜平沼分教室の取組の報告（横浜平沼分教室長）

- ・県内に分教室は 20 教室ある。保土ヶ谷養護学校には 2 ヶ所。それぞれ高校の 5 教室を割り当てられている。いかに設置校、及び外部資源を活用できるかが分教室の活動のポイントになる。1 学年 15 名、3 学年で 45 名定員、教員は 13 名。よって、入学の条件も自力通学、集団授業中心の活動が可能であること、昼食を用意すること等となっている。
- ・教育目標は、卒業後に社会生活を営んでいく力を育てること。社会人になること、働くということを常日頃から伝えている。働くためには、知識、技能、体力、コミュニケーション力が必要。余暇で人生を豊かに過ごすことも身につけてほしい。日課表は教科学習と職業の授業。職業は 3 班制で、卒業までに全てを体験してもらおう。地域資源の活用として、男女間の距離の取り方を学ぶデート学習、サービス班ではコーヒー関連の企業の方に来ていただいて接客やコーヒーの淹れ方を学習、環境整備班は近隣公園の清掃・老人ホームの窓拭き等を行っている。受工芸班は校内での製品作りや会議資料の作成等を行っている。授業では、高校内の施設も資源として借用しているが、いつも快く貸していただくことができ、助かっている。以上のように、集団活動、外部の方を講師に招いての授業等に積極的に取り組んでいる。
- ・実習では、校内で郵便局の封筒詰め作業・清掃等、校外では近隣にある銭湯、路線バスの清掃等を行っている。バス営業所の所長からの乗り方マナーの授業もあり、地域に支えられている、と実感できる。
- ・高校との交流は、文化祭・体育祭への参加、高校教員による理科の実験授業等で行っている。
- ・分教室の行事としては、舞岡分教室と合同で野外教室・修学旅行。清掃技能検定への参加等がある。
- ・分教室のルールとして、「横浜平沼分教室スタンダード」があり、それを生徒に示しているが、今後見直しも必要となるので、委員の皆様からもご意見を頂戴したい。生徒会が中心になって、スマホ・携帯の使い方を廊下に掲示したり、「めざせ大人の社会人」と題して、教室に掲示したりしているので、それらもご覧いただきたい。

#### 7 切れ目ない支援部会等、学校設置部会検討の報告（教頭）

- ・切れ目ない支援部会では、昨年度から交流をテーマに、またパラスポーツイベントに関して取り組んできている。交流のねらいは本校の児童生徒が経験を広げ社会性を養うこと、相手校の児童生徒の障害理解等を進めること。一方、課題としては、授業時間内に通常級との交流の確保が難しいこと等がある。

また、11 月に西公会堂で行われた「人づくりコラボ 2019」では、交流と

パラスポーツの取組みについて発表した。パラスポーツで地域との交流が活発に行われていることが本校の特色である。その点が評価されたといえる。その席上では、本校高等部生徒と光陵高校生徒が登壇し、パラスポーツの感想について述べたり、授業交流の大切さ等について発表したりした。

イベント後、登壇した光陵高校生徒から、本校職員宛てに手紙をもらったので、ここで紹介したい。

- ・一方、学校設置部会としての「環境部会」の検討作業は、学校農園を活用した活動を思い描いている。農地開拓・改良、維持管理の難しさ等により、構想から実現に向かわない苦しさがある。まず「農園活性化プロジェクト」を立ち上げて教職員の意見を取りまとめ、地域につながるキーマンを加えて部会を立ち上げていきたい。

#### 8 授業視察（職業：環境班、受工芸班、サービス班）

※校外内の各活動場所へ移動して、視察を行った。

#### 9 協議 テーマ「学校と各関係機関との連携について」

- ・（校長）本校は恵まれた環境で、近隣の学校、分教室設置校との交流が積極的に行われている。子どもたち同士・職員同士の連携、PTAの連携が盛んになれば、お互いにとって良い交流となる。目指すのは、本校の子どもたちだけにメリットがあるのではなくお互いにとってメリットがあること。そういう関係を作っていきたい。（教育長の記事を紹介し）インクルーシブ教育実践推進校が次年度14校になる。知的障害のある子どもたちの進学の実機が増える。課題も多くあるが、共生社会につながっていくことが一番である。神奈川県としては、将来的にフルインクルージョンを目指している。光陵高校、横浜平沼高校の生徒たち若い世代が、特別支援教育に気持ちが向き共生社会につながっていくことを願っている。今後、インクルーシブ教育を進めていく中で、特別支援学校がどんな役割を果たしていけばよいのか、関係機関と連携しながら、次世代の子どもたちをどう育てていくのかを私たちは考えなければならない、と思う。
- ・（委員E）社会資源が近くにあるとよい。本校は、あることはあるが、あまり近いとは言えない。PTAの交流はとても大事と感じているので、保護者が将来に向け、そういう気持ちで参加してくれるとよい。
- ・（委員D）子どもたちが生き生きと活動していた。素晴らしい環境で育っていると私自身は感じた。
- ・（委員C）BUNカフェは毎週やっているのか。出張で来たら、寄ってみたいと思った。
- ・（分教室長）月2回、隔週で取り組んでいる。開店時間は基本的に午前11時から午後1時までである。
- ・（委員C）先ほどの生徒の手紙は、教員が指導したのではなく、本人が自主的に書いて持ってきた。過日の吹奏楽部の演奏会も、根底にあるのは授業交流である。1年次から生徒全員が行っていることに意味がある。交流実施後に、生徒が感想を書くが、いろいろな気づきがあり、生徒たちが大きく変わっていく。中には、教員志望、特別支援教育の教員志望の生徒もいるが、そ

	<p>うでない生徒たちにとっても、こういった感性を持って社会に出ていく中で、「共生」について、考えていってほしい。本校生徒にとっても、大事な経験となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(委員 B) 地域資源を活用しているのが、とても良い点である。地域に根付くためには、地域のことを知って連携を取っていく。使わせてもらうことで層が広がっていく、といえる。「農園活性化プロジェクト」で公園の落ち葉を活用して腐葉土作りをやってはどうか。野菜作りには、土を育てなくてはならない。腐葉土にはカブトムシもいる。</li> <li>・(委員 A) 分教室の独自性が出ていて素晴らしい。生徒たちの伸ばせる力を伸ばしていく。一般の高校生と同じ場所で活動していることもよい。教育長の記事で、障害児教育の考え方が変わってきている、と感じた。これからも一層進んでいくことを感じた。</li> <li>・(副会長) 地域と一緒にあった活動、連合自治会や近隣高校との連携がとてもありがたい。分教室の目標で、社会生活、コミュニケーションを掲げていることは、企業就労に向けてとても大切なこと。舞岡分教室でも環境整備に取り組んでいるが、横浜平沼分教室の職業の取り組みも素晴らしい活動である。長続きのコツは、win/winの関係である、と校長も分教室長も言っていたことが印象に残った。</li> <li>・(会長) 分教室で培ってきた実績、存在意義を改めて感じた。継続していただきたい。学校間交流では、授業での交流が大切である。交流を通して、子どもたちが我が事として関わっていくことを目指して、さらに積極的に進めていってほしい。「切れ目ない支援部会」のまとめは、「ねらい・活動内容・現在の到達点・課題・今後の解決策」等について、次につながっていくように具体的に示してもらえるとよい。「農園活性化プロジェクト」は土作りの話もあり、そこからの連携もあるが、やや苦戦している様子が見られる。取り組みの実際で、今後どのように進めていくか期待したいところである。</li> </ul> <p><u>→分教室の取り組み等について、「切れ目ない支援部会」と学校設置部会の検討報告等について、委員による承認</u></p> <p>10 事務連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回 開催期日として、令和2年2月25日(火)で内定</li> </ul> <p>11 学校長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いただいた助言を真摯に受け止め、今後の学校運営に生かしてまいりたい。</li> </ul> <p>○閉 会</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>
<p>会 議 資 料</p>	<p>※添付なし</p>